

二〇二二年七月三〇日

パノラマに積丹ブルー夏の潮
泥鰯鍋上がり框の黒光り
山鳩のこゑの涼しき生家かな

むべ
凡士
更紗

二〇二二年七月二九日

常濡れに苔の石仏作り滝
雲の峰高し底ひに播磨灘
車座に子ら氷菓食ぶ草野球
大西日並ぶ羅漢の赤ら顔
雲龍図うち仰ぎ見る堂涼し
夏痩せと声掠れたる電話かな

ぼんこ
素秀
智恵子
素秀
明日香
なつき

二〇二二年七月二八日

炎天下軍鶏半眼に仁王立
茅葺きの一集落や流れ星
背な反らせ蝉捕りの子の木を見上ぐ

素秀
みきお
たか子

二〇二二年七月二七日

わが影に纏はる影は揚羽蝶
蝉時雨ぴたと止みたる昼餉時
おはぐろの舞ひ来て池に風生る
老犬の大き溜息夜の秋
吊橋に二の足を踏む夏帽子
宿題の刺繍拙き白ハンカチ
瘦身にじんべの紐を持って余す
香りふくよかワイン煮の傷の桃

せいじ
満天
たか子
むべ
はく子
あひる
なつき
やよい

二〇二二年七月二六日

筒抜けの風が馳走や夏座敷
山頂のポストに落とす避暑便り

もところ
凡士

二〇二二年七月二五日

病む父と七三で分く氷菓子
絵手紙の水色淡き夏見舞
勝利して校歌斉唱雲の峰
助手席に浮輪離さぬ子の寝顔

なつき
満天
凡士
智恵子

二〇二二年七月二四日

笹の梅天地返しす夜干かな
補聴器を外し程よき蝉しぐれ
背高の夏草刈れば顕彰碑

ぼんこ
せいじ
あられ

毎日句会みのる選・二〇二二年八月一日